

平成 30 年度 第 1 回野生鳥獣被害対策本部会議実施内容及び議事概要

1 日時 平成 30 年 11 月 9 日（金） 午前 9 時 30 分から午前 11 時まで

2 場所 県庁議会棟 第二 特別会議室

3 会議

(1) 平成 30 年度野生鳥獣被害対策の主な取組の実施状況(上半期)について

資料 1

(2) 堅果類の豊凶調査結果及びツキノワグマの出没予測について

資料 2

(3) その他

4 研修 「ツキノワグマと共存すること」 講師 濱口あかり氏（長野県クマ対策員）

資料 3

5 議事

事務局から、それぞれの資料等に基づき説明を行い、意見・質問を問うたところ、次のとおり意見・質問とそれに対する説明があった。 研修の講演後も意見交換を行った

発言者	発言内容
事務局	<p>ただいまから、平成 30 年度第 2 回野生鳥獣被害対策本部会議を開催いたします。</p> <p>本日の全体の進行を務めさせていただきます対策本部事務局の鳥獣対策・ジビエ振興室の三枝哲一郎でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、副本部長の中島副知事からごあいさつをお願いします。</p>
中島副知事	<p>皆さまおはようございます。副知事の中島でございます。</p> <p>今年 2 回目の会議になります。野生鳥獣対策については、各部局それぞれの立場で対策を講じていただき、各地域においても野生鳥獣被害対策チームを中心に様々な野生鳥獣に負けない集落づくり、シカの捕獲対策を進めていただき感謝を申し上げます。本日の会議では、今年度の上半期のそれぞれの対策について報告いただき、進捗状況を確認したいと思います。</p> <p>今年は、ツキノワグマの大量出没が予測されていましたが、幸い予想ほどの大量出没ではない状況になっていますが、今後の状況についても情報共有したいと考えています。</p> <p>また、本日は NPO 法人信州ツキノワグマ研究会の濱口さんにお越しいたいただき、「ツキノワグマと共存すること」というタイトルで、ツキノワグマの出没場所の調査結果を題材に野生鳥獣の集落への出没を減少させるための情報共有についてお話しいただきます。</p> <p>限られた時間ではありますが、活発な意見交換をお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、会議は、林務部長の司会で進めさせていただきます。山崎部長よろしくお願いたします。</p>

山崎林務部長	<p>司会をつとめさせていただきます林務部長の山崎 明でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず本日はこの議事は大きく二点、「平成 30 年度 野生鳥獣被害対策の主な取組の実施状況(上半期)について」と「堅果類の豊凶調査結果及びツキノワグマの出没予測について」でございます。いずれも関連する話が出てまいりますので、事務局から順次一括して説明後に御意見ご質問をいただきたいと思っております。</p>
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>事務局長の林務部鳥獣対策・ジビエ振興室長 巾崎史生でございます。</p> <p>今年度上半期の野生鳥獣被害対策の主な取り組みの実施状況についてでございます。</p> <p>「Ⅰの捕獲対策」のうち、1の捕獲者の確保・育成事業(1)ハンター養成学校の開校等についてですが、前回の本部会議の際、今年度のハンター養成学校の取組内容を農政部長からご質問いただきましたので、改めて説明させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は 48 名の方が入校され、10 代から 30 代の方が 65%を占めています。セミナーは5回に分けています。 ・第1回目は開校式及び知識講習として法令、狩猟免許制度、鳥獣による被害について、7月 28 日(土)と 29 日(日)に松本市と長野市において実施しました。 ・第2回目はわな猟に関する知識講習とわな猟の現地講習を松本、上田、長野の 3か所の地域振興局管内で実施しました。 ・第3回目はジビエの衛生管理に関する知識講習、解体講習を予定しています。 ・第4回目は銃猟に関する知識講習と銃猟の現地講習を上田、松本、長野3か所の地域振興局管内で予定しています。 ・第5回目は閉校式その他、狩猟講話として実際に狩猟に携わる方などによる講演会を予定しています。 <p>「Ⅰの捕獲対策」の2の効果的な捕獲対策(1)ニホンジカ捕獲強化事業については、これまで捕獲が進み、警戒心が高まり捕獲しづらくなったシカを捕獲するため、新たな捕獲技術を用いた効率的な捕獲の実証調査として、八ヶ岳地域において、凍結防止処理ワナによる捕獲技術の実証に取り組んでいます。また、シカの生息密度が高いにもかかわらず捕獲数が伸びない八ヶ岳地域において、また、シカの密度が高まりつつある中央アルプス地域において、センサーカメラ等を活用した行動把握のための調査も行っています。</p> <p>(3)鳥獣被害防止緊急捕獲活動への支援については、シカ、サル、イノシシ等の捕獲活動や捕獲に必要な機材の購入等、地域の取り組みに補助するものですが、現在各地域で積極的に取り組んでいただいているところです。</p> <p>「Ⅱ防除対策」では、1の農業被害を防ぐ侵入防止柵の設置、2の造林木樹皮剥ぎ防止対策はいずれも交付決定済みで設置を進めています。</p> <p>「Ⅲ生息環境対策」については、里と森林の間の藪の刈払いなどの緩衝帯整備を進めています。また、野生獣の移動経路を除去する河畔林の整備も進めており、県管理の1級河川 16 か所、市町村管理の準用河川 21 か所において実施されています。写真のある資料は、3か所での施工前と施工後の状況です。</p>

「IVジビエ振興対策」については、流通体制整備のため2名にジビエコーディネーターを依頼し、食肉加工施設とジビエを使いたい飲食店からジビエの需給動向に関する情報収集を行っています。

また、首都圏へのPRとして銀座NAGANOIにおいて「信州ジビエ魅力発見cafe」を8月に開催しました。また、下半期になりますが、今年15日から来年2月15日までの期間に、長野県内や首都圏の飲食店約50店舗に参加いただき、期間の長短はありますがジビエ料理を提供していただく「信州ジビエフェア」を開催するほか、その他イベント等により活用につなげるよう取り組んでいます。

「V野生鳥獣生息状況調査等」については、来年度末で第4期のカモシカ特定鳥獣管理計画の期間が終了するため、第5期の計画策定に必要なカモシカの生息状況等の調査しているところです。

「VIその他」については、野生鳥獣、特にツキノワグマによる人身被害防止に向けた普及啓発ですが、観光客への注意喚起あるいは生徒、教職員、保護者への注意喚起の他、担当教諭を対象とした「学校安全・防犯教育研修会」の中でツキノワグマの専門家による「ツキノワグマの出没に備える安全教育」の講義を行うなど、各部局、関係者と連携し、進めてきました。

堅果類豊凶調査とツキノワグマ出没予測についてです。

「出没状況」は、今年度は過去の経過から、クマの大量出没が心配されましたが、森林づくり県民税を活用した河畔林の伐採や観光地、学校等での注意喚起、教職員への安全研修会でのクマに関する講義を通じ、人身被害防止対策を行った他、新聞、テレビ等報道機関に積極的にお願いし、県民の皆様にご注意を呼び掛けてきました。

表にありますように、現在集計ができています9月までの里地での目撃件数は、29年度に比べて135件増加しています。また、人身被害件数は10月末で5件発生し、現時点で29年度と同じ状況です。なお、発生場所はすべて森林内となっており、沢での釣りやキノコ採りによる2件以外はクマの放獣作業等に関係した人身被害です。

「堅果類豊凶調査と出没予測」ですが、ツキノワグマは秋のドングリの堅果類の実りが豊作だと出産が増え、翌年度の子グマの出没が増えることが知られていることから、県では例年、この実り具合の調査を行ない、注意喚起に活用してきました。

近年全国的に、数年おきにクマの大量出没が繰り返されるようになっており、その大きな要因が、秋のドングリ類の凶作にあるらしいことがわかってきたことから、ドングリ類の豊凶による秋の出没予測と、注意喚起を行っているところです。

「豊凶調査の結果」ですが、ブナは凶作から並作、ナラ類は凶作から大豊作となっており、地域によるばらつき、また木ごとのばらつきが大きくなっていますが、いずれの樹種も一定程度の実りがある状況です。

「出没予測」ですが、県林業総合センター、県環境保全研究所の分析では、全県的な大量出没の可能性は低いですが、地点ごと、単木ごとのバラツキが大きいため、クマの行動範囲が広範に及ぶ可能性があり、キノコ採りなどで入山する場合

	<p>は遭遇の危険性があります。また、ナラ類の実りが少ない浅間山麓や木曾地域では、森林に近い農地周辺などで人里のカキやクリを求めて出沒する可能性があり、山際での活動に注意が必要となっています。</p> <p>これらの内容については、先般、市町村等にお知らせするとともに、報道機関にも積極的に情報を提供し、注意喚起を促しているところです。</p>
山崎林務部長	<p>事務局から説明をいただきました。今年はクマの大量出沒が懸念されていた中で、クマ対策の成果として成果として一定の役割を果たしたということによろしいか。</p>
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>里地での被害、里地への大量出沒がなかったこと、集落内の事故がなく、対策を進めたことで県民がクマに注意していただいたことで効果があったものと考えている。</p>
山崎林務部長	<p>全般を通じて質問などがありましたらお願いします。</p>
山本農政部長	<p>ハンター養成事業の入校者数が昨年度に比べて減っているがどうか。</p>
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>H26年からやっており今年で5年目になり、増えていくことは考えにくいと思っている。既にある程度の方は申し込んでいただいていると考えている。補助などがあればよいかもかもしれないが、ここ数年伸びていない原因の一つとして、地元に残っていただくことを条件としていることがあるかもしれない。</p>
山本農政部長	<p>ハンター養成学校でのわな、銃の割合はどうか。南信州では、わなの新規取得が増えて、銃が減っているということを言われたことがある。</p>
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>新規の狩猟免許の取得では、平成29年が第1種銃猟が180名、わな猟320名、平成28年が第1種銃猟193名、わな猟301名と銃猟が大きく減ってきているという訳ではない。</p>
中島副知事	<p>ハンター養成学校があることをもっと周知した方がよい。ハンターだけでは難しいので農業等の副業で行うなどの情報提供することがよいと思うので、農政部でやられている農ある暮らし塾等に参加される県外からの移住者の関心は高いのではないかと思うので、そういったところでもっと宣伝した方がよい。環境カレッジなどでも、ハンター養成が山の生態系保全につながることを載せてもらったほうがよい。やりたい人や、関心のある人に情報が届いていないのではないか。移住者も含めて、周知にしっかり取り組んでもらいたい。</p>
山崎林務部長	<p>入校されている方の職種が分かるとよいのではないか。そうすることでどの辺の人たちに受け皿があるのかが見えてくると思う。情報が届いていない人に届くように工夫していただきたい。</p>
丸山山岳高原観光課長	<p>観光客への注意喚起を3月、9月に行ってきた。キャンプ場の巡回などでも気を付けていただき、例年よりもきめ細かくやれたことで、キャンプ場での被害がなかった。信州ブランドとしてのジビエ振興として、銀座NAGANOを2回使っていただくことになっているが、発信拠点として今後も活用いただきたい。</p>
高田環境部長	<p>ツキノワグマの出沒について、地域別の状況やどのような箇所が多いか等の資料はあるか。</p>

巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	手持ちではない。
山崎林務部長	別途整理していただきたい。
中島副知事	ツキノワグマの出没予測に関する資料を見ると、堅果類の豊凶が地域でばらつきがあることを指摘されているので、豊凶の状況をわかりやすい形で各部局と共有するとともに、県民の方にも可能な範囲で共有していただきたい。これだけが、ツキノワグマの出没予測になるものではないが、一定の目安になるので、わかりやすい発信の仕方を検討してもらいたい。
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	信州大学の先生が周辺県のデータ等を持っておられるという話もありますので、本県のデータも加え、環境保全研究所とも共同して調査結果が見えるように工夫したい。
山本農政部長	森林づくり県民税を活用した河畔林の伐採はよい取組みだと思うので、具体的にどのような効果があったのかを説明していただけるとよい
建設部河川課小松企画幹	治水上の対策として進めており、実施した状況はお示しできるが、鳥獣対策の効果を示すのは難しい。
山崎林務部長	今後河川対策をした箇所でも動物の出没がどうなったか等の分析を進めていただき、河川対策の効果を示してもらいたい。
山崎林務部長	本日は、講師として、信州ツキノワグマ研究会の濱口あかり氏にお越しいただいており、「ツキノワグマと共存すること」として、実際にあった体験等を基にお話しいただき、前段の議論も受けて話を深めていきたいと思っております。では、濱口さんよろしく申し上げます。
濱口あかり氏	昨年調査したクマの出没箇所の集落点検の調査結果等を基に、「ツキノワグマと共存すること」として取り組んでいかなければいけないことなどお話しします。 (講演要旨別添)
山崎林務部長	大変わかりやすい話をありがとうございました。 では、前段の議論も含めて講演の内容に関して質問がありましたらお願いします。
中島副知事	クマの出没場所の情報のデジタル化は重要だと思います。また前段の堅果類の豊凶のデータのマップ化と合わせて出没場所のマップ化もしていくとよいと考えます。 安曇野市で出没情報を公開されていた事例は、全くの民間でなされたことなのでしょうが、行政が関わっていることでしょうか。 県としてもクマ対策員の方などが参加しやすい情報のプラットフォームがあればよいと思いますが、具体的な助言があればお願いします。
濱口あかり氏	情報が掲載されていたのは、行政は関わっておられないサイトだと思います。岐阜県などでは、県単位で県民が参加できる情報発信のサイトを作る等のクマに対する意識を高めていこうという動きは進んできています。

山本農政部長	動物写真家の宮崎さんに河岸段丘をクマが生息域に使っているという話をお聞きしましたが、これは防ぎようがないことなのか。
濱口あかり氏	山と河岸段丘が明確に区別できる状況ではない。クマにとっても山がどこまで、河岸段丘がどこまでと区別しておらず、使える場所を移動して使っていく間に利用できるかと認識してきたと思われる。こうした場所は、ありとあらゆる動物が使っている場所で、分断化することも被害対策となるかもしれないが、現状はそういう切れ間がない状況にある。
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	今回見せていただいたクマの動きのデータはどの季節のデータか
濱口あかり氏	夏のものだと思います。畑に出ることがメリットあるということであり、トウモロコシ畑への移動もあった。
環境部 春日自然保護課長	被害のあったところにクマ対策員等の専門家が行って迅速に調査や対応をするのがよいということはその通りだと思う。特に出没した時には、地元の方の関心が高いので、こうした取組を進めていくことが大切だと思います。 長野県内でクマの生息数は、どの程度が望ましいのか。
濱口あかり氏	個体数がどのくらいは難しいと思います。 頭数というより住んでいる方がどこまで被害を許容できるかということだと思う。同じような被害でも他の地域では許容できても、ここでは許容できないとか、地域の方と折り合いがそれぞれで違う。これまでの調査においても、被害が顕著であればあるほど、地域の方が許容できる範囲の妥協策を見出している。 地域の方々が、どのように鳥獣に関わって被害におどこで折り合いをつけるかと考えることになると思います。
中島副知事	とても貴重な情報ありがとうございます。県としても活用していきたいと思えます。先ほど示していただいたクマの動きが昼夜で違うことなども含めて、住民の方と本日のお話を共有して、集落対策にもつなげていきたいと思えます。 出没場所の情報等のデジタル化による発信についても、堅果類の情報と合わせて、市町村との役割分担もありますが、行政からの発信型や県民参加型等のやり方について助言をいただきながら検討してください。 今後情報が集まれば、AI活用によるより精度の高い情報提供につなげていきたいと思えます。
山崎林務部長	それぞれの部署で濱口さんにご相談したいことがありましたら、鳥獣対策・ジビエ振興室を通じてお願いします。 では、濱口さんに最後もう一度拍手をお願いいたします。 これで会議事項は以上となります。
事務局	どうもありがとうございました。 これで、第2回野生鳥獣被害対策本部会議を閉会いたします。